

「防災対策の充実・強化に関する取組み」について

(1) 北陸地域の港湾における地震・津波対策の必要性

① 産業・経済活動に係る各港湾の役割

- ・日本海側対岸諸国との貿易拡大に対処して港湾整備を推進
- ・北陸管内の港湾における外貿コンテナ取扱量が増大し、地域経済の活性化に寄与
- ・エネルギー基地としての役割の増大
- ・太平洋側の広域的なバックアップ機能の確保

② 港湾をはじめとする経済基盤の災害対応力強化の必要性

【従来】

- ・日本海側で発生した地震・津波による北陸地域の港湾施設の被害は比較的軽微
- ・冬季の季節風等による厳しい波浪、海岸侵食、高潮への対策が中心

【東日本大震災以降】

- ・東日本大震災の教訓を踏まえ、国内産業・経済活動の維持・発展及び国民生活の安全・安心の確保を図るため、北陸地域においても港湾における地震・津波対策の検討が急務
- ・北陸各県が想定地震・津波浸水想定を見直し

→ **北陸地域の港湾における災害対応力の強化が必要**

(2) 北陸地域における港湾の地震・津波対策に係る包括的な方針

- ・「港湾における地震・津波対策のあり方」(防災部会答申)に基づき、北陸地域の状況を踏まえた対策を推進する
- ・港湾施設や海岸保全施設の耐震性・耐津波性の更なる確保を推進する
- ・管内主要港における港湾BCPの策定を支援することにより、災害対応力の強化を図る。

【新潟港港湾BCP策定】

港湾BCPとは、発災後の港湾関係者の初動体制、施設の応急対策等の行動計画のこと

※BCP(Business Continuity Plan): 事業継続計画

- ・H25. 3 新潟港港湾BCP協議会設立
- ・H26. 2 第2回新潟港港湾BCP協議会開催予定
- ・H25. 3 第3回新潟港港湾BCP協議会開催予定(新潟港港湾BCP策定)

「白山」災害対策施設の増設

大型浚渫兼油回収船「白山」主要目

船体部

- ・全長: 93.9m
- ・幅: 17m
- ・深さ: 7.5m
- ・総トン数: 4,184t
- ・速力: 13.1ノット
- ・航行区域: 近海区域(国際航海)

浚渫部

- ・浚渫方式: サイドドラッグ式
- ・浚渫ポンプ: 3,300m³/h × 2台
- ・浚渫深度: -7.5 ~ -18m
- ・泥層容量: 1,380m³

油回収装置部

- ・油回収器: 500m³/h × 2台
- ・油水吸引ポンプ: 250m³/h × 4台
- ・油水槽容量: 1,530m³

① 清水・燃料油の送量能力の増強

非常時の活用方法



② 物資搭載用クレーンの増設

クレーン (船首側より見る)

